

季節前線シギチドリ -今春は北海道を駆け足で通過-

守屋年史



2015年の春も季節前線シギチドリの対象種の初認情報を募集しました。今年度は、63名の個人・団体から情報を提供していただきました。ご協力ありがとうございました。対象とした8種(今年からオオソリハシシギを対象種に追加)の渡りは、昨年と比較してどうだったのでしょうか。寄せていただいた情報から、「よく行く場所の初認記録」を中心に、今年の結果と昨年の結果を比較しながらみてみました。

その前に天候の概要

気象庁の天気概況では、今年の4月は、『西・東日本太平洋側は上旬～中旬に曇りや雨の日が多く月間日照時間がかなり少なかったものの、下旬は晴れた日が多く西～北日本は旬間日照時間がかなり多く、全国的に気温高く、特に釧路は4月極値の高温(観測上最高気温)』(気象庁。日々の天気図No.159)だったとされ、5月は、『東～北日本中心に記録的多照と高温。55の観測地点で月平均気温5月極値(観測上最高気温)』(気象庁。日々の天気図No.160)ということで、春先に不順だった天候も、東日本を中心に4月下旬以降はよく晴れ、気温も高かったようです。2014年は、4月初旬は不安定で、中下旬に天候が持ち直したものの、5月は梅雨前線の影響で5月の下旬まで天候はよくありませんでした。シギ・チドリ類が日本を通過中である4/30時点の標高50m以下の各観測所の日平均気温を図1に示しました。違いが明瞭なのは北海道北部沿岸、特にオホーツク海沿岸は、昨年に比べて、暖かいことがみとれます。

本州で長逗留？ムナグロ

毎年、早春に観察されるメダイチドリは、2014年、2015年ともに4月初旬に東北地方まで観察されています。北海道南西部への到達も、2014年は4/24、2015年は4/23と両年とも同じぐらいでした。

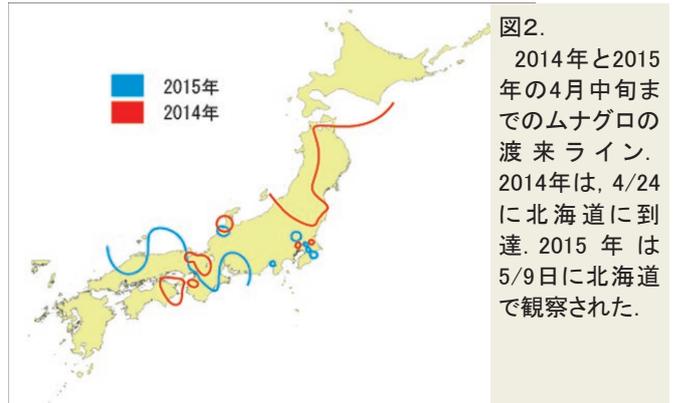
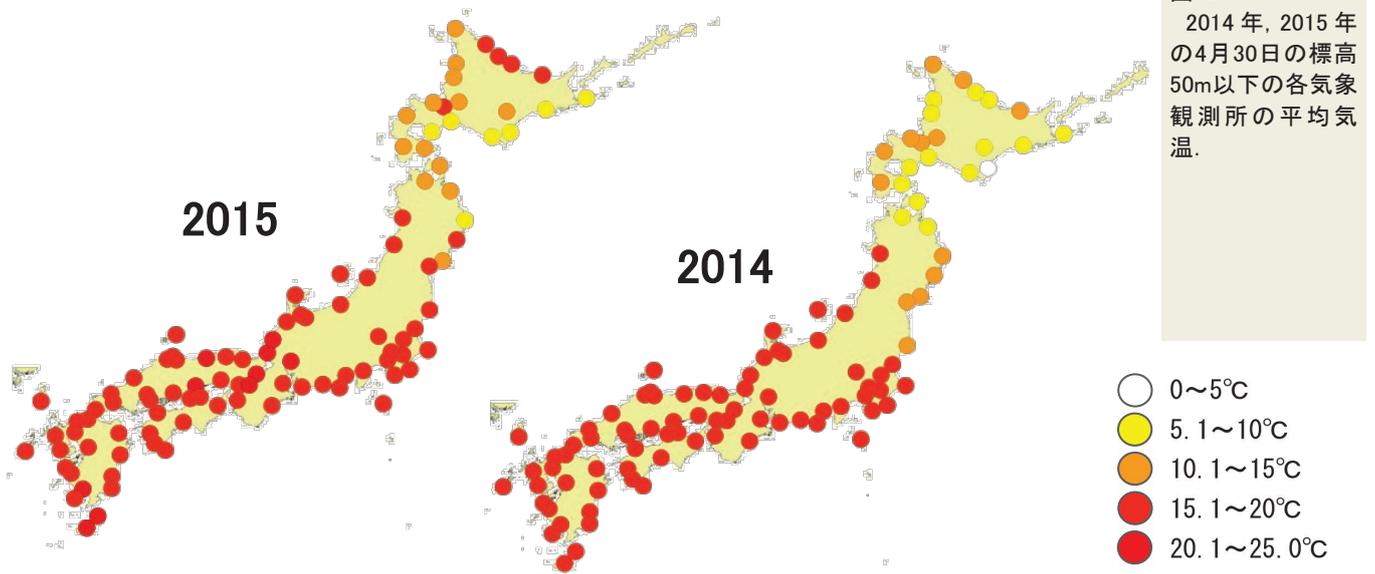


写真1. ムナグロ
Photo by 三木敏史

ムナグロは、本州太平洋側で4月初旬から報告され始めましたが、東北以北への渡来が遅く、北海道への到達は5/9で昨年よりも2週間遅い結果となっています(図2)。後述しますが、シギ・チドリの移動が早かったと考えられる今年の渡りで、ムナグロだけは北上が遅い結果となりました。原因は不明ですが、ムナグロは春期に農耕地に集結して渡っていきます。干潟とは環境が異なるため、長期に滞在したのかもしれない。



多くの種が北海道を足早に通過

キョウジョシギは4月の中旬頃から報告があり、東北までの到達は2014年と変わりませんでした。北海道への到達は4日遅れましたが、オホーツク海側では昨年より10日ほど早く観察されています。トウネンも同様で、東北までの初認は昨年とほぼ同時期、北海道への到達は2日遅く、オホーツク海側での観察は逆に4日ほど早い結果となりました(図3)。



図3. 2015年のトウネンの渡来ライン。

チュウシャクシギ、キアシシギは春期の渡りの終盤に観察され始めます。チュウシャクシギの全国で最も早い報告は2012年が4/15、2013年が4/11、2014年が4/9と年々早まっており、2015年は4/5でした。北海道への到達は4/25で昨年と同じですが、オホーツク海側での観察は昨年より8日早い5/11になっています(図4)。キアシシギは、2012年以降、4月の15~20日に初報告がありましたが、今年は4/12に



写真2. チュウシャクシギ

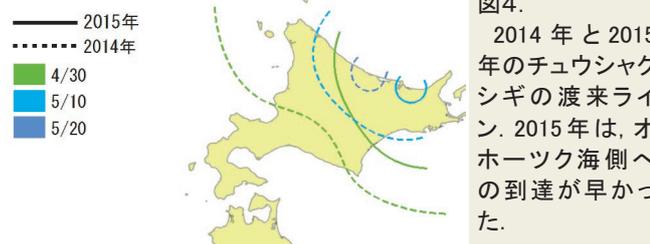


図4. 2014年と2015年のチュウシャクシギの渡来ライン。2015年は、オホーツク海側への到達が早かった。

東北で報告されました。北海道での初認はオホーツク海側で、昨年より6日早い4/30となっています。昨年と比べると、北海道の太平洋側からオホーツク海側への移動が早まった種が多いようです。

今年から対象種に含めたオオソリハシシギは、3月下旬には北部九州付



写真3. オオソリハシシギ

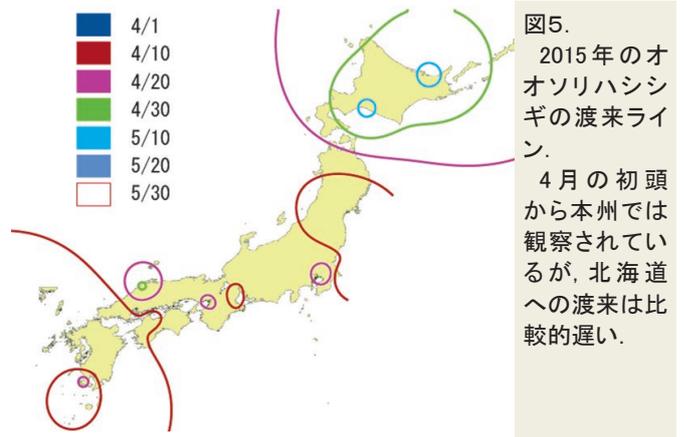


図5. 2015年のオオソリハシシギの渡来ライン。4月の初頭から本州では観察されているが、北海道への渡来は比較的遅い。

近と東北と分かれて報告され、その後、5/11に北海道で報告されました。本州以南には早く渡来するようですが北海道への渡来は遅い結果となりました(図5)。

シギの渡りと天候

シギ・チドリは、彼らが日本を通過する4月~5月の間の天候に左右されると考えられます。今年は4月上中旬に暖かく湿った空気が流れ込み、不安定な天候でしたが、下旬からは好天が多く、北日本を中心に日照時間がかなり長くなりました。5月も引き続き日照時間が長く、1946年の統計開始以来5月の最長記録を更新しています。また、4~5月の気温は総じて平年より高く、北・東日本では、月平均気温が観測史上最も高い値を更新した観測地点が55箇所もありました(気象庁。報道発表資料)。このように今年は気温が高く好天だったために、種によっては中継地での滞在が短く、滞留する鳥達が少なかった可能性があります。そのため、一度に観察される最大個体数は昨年と比べて減少しているかもしれません。モニタリングサイト1000のシギ・チドリ類調査における春期の集計の暫定結果では、昨年と比べて約10%ほど最大個体数の合計が減少している結果となっています(ヒレアシシギ類は除く)。

シギの初認調査の難しさ

水鳥の初認調査は、観察者が水際に行く必要があることがネックで、毎日の観察が難しいのが現状です。しかしそれでも、水辺をマイフィールドにされている方々の報告により、水辺の渡り鳥の移動が分かっています。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

参考資料

- 気象庁予報部予報課. 日々の天気図 No.159, No16 (<http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/hibiten/index.html>)
- 気象庁. 平成27年6月1日. 報道発表資料「5月の天候」
- 気象庁. 平成27年5月1日. 報道発表資料「4月の天候」